

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報
第97号(201708)
発行 竹田 幸男



第8回ビデオ作品発表会
妹尾さん「吉野山大名行列」より



例会の窓

■平成29年7月例会

日時：7月12日(水) 13:30~

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田

谷 田淵 中村地区委員

欠席者：1名(50音順・敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報随想筆者 佐伯さん

(2) 今年の第2回撮影会

日時：11月16日に決定 7月の合同例会時に行き先を提案

(3) 7月の合同例会は7/23(日) 13:30

・大阪アマチュア映像祭出品作決定

(4) 11月の市民文化祭出品作品は9月例会提出。1人1作10分以内の作品。

- (5) 第11回寝屋川映像フェスティバルは来年5月13日(日)
- ・10分以内の作品1作。
 - ・今回からは著作権を守った作品を目標に。今年中に作品完成のこと。

(6) プレミア研究会

- ・6/29(木)9:30~16:30 2回目は8月3日。

3. 映写・研究発表

3. 1会員持参作品の映写

(1) 小笠原さん「オオムラサキを守る会 35周年記念大会」 20分

- ・小笠原さんは、関係者の皆さんにDVDを150枚 プレゼントされたとのこと。滋賀県知事も来場され、子供代表のインタビューにたじたじ。

(2) 妹尾さん 「金沢兼六園 成巽閣」 10分

- ・由緒ある邸宅の内外を紹介、広い範囲を収めようと、少しパンの場面が多いようです。

(3) 新井さん「思い出の摂津峡」 7分

- ・人工ソフトのナレーションなので難しい所もあるが、間を取る所と、詰める所との緩急を配分されては。
- ・現実場面と想像場面との差をつけるよう画面の工夫をされては。この作品は合同例会に出品を。

3. 2参考ビデオ作品

合原一夫さん 「君の生涯 よく頑張ってきたね」 20分

- ・「日本を縦断する映像発表会」出品作品

日本アマチュア映像連盟の合原会長の作品、奥さんの若いときから長年撮り貯めた映像の迫りに映写終了後、しばし声なし。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等(省略)



白 杖

佐伯節子

ある日の大阪駅、混雑した電車からホームに押し出されたとき、私の足が何かにぶつかってよろけた。「あ、あらごめんなさい!」とっさにその人に掴まり、足下を見ると白い杖。杖の持ち主は小柄な老婦人。こちらが支えてもらっているのに「どちらへ行かれます? ガイドしましょうか?」なんて厚か

ましく申し出たら、にこやかに「あなた大丈夫？」といわれた。どういう意味に取れば良いのかな？ 私を気遣ってくれたのか、こんな人にガイドされて無事に行けるだろうかという心配なのか？ そう言いつつも私の肘を持ってくれたので、一緒に階段を降りる。足取りはしっかりして危なげがない。「いつもと違うルートを通ると感覚が狂うから」と「階段降りたら左ね」「次は7. 8番の表示の処を曲がってね」等と指示される。一人で出歩くのに慣れているようだ。「阪神百貨店に行く」とのこと、改札出してから点字ブロックまで同行し握手して別れた。ホームから改札までの短い時間だったが、ずっとおしゃべり。その人に「あなた慣れているわね」と言われた。

ずっと昔に、講習を受けたことはあった。が、実践するようになったのは、全盲の女性と知り合ってから。

付き添いなしで歩いている人でも、ガイドは助かるそう。彼女に色々教えてもらった。

『案内されるとき手を引っ張られたりするのは怖い。肘か肩を貸してくれると手に持った白杖が使えるから良いが・・・』『どういう風にしたら良いのか、何をしたいのか本人に訊いてくれたら良いけど、なかなか尋ねてくれない』『白杖は私の目、ぶつかって折られ、そのまま逃げられたこともある。杖が曲がっても見えにくくなる。新しい杖も慣れるまで時間がかかる』という。白杖で探ることを彼らは見る、という。『少しの段差は見えにくい（杖で探りにくい）』これは私もよく分かるわ。ガイドしているとき、僅かの段差に気付かず私がよろけると、彼女が踏ん張って私を支えてくれた。

最近でのドジ話をひとつ。病院受診のため奈良まで同行を頼まれたときのこと。そのときは彼女と彼女の夫（全盲）二人を一緒に連結ガイド。

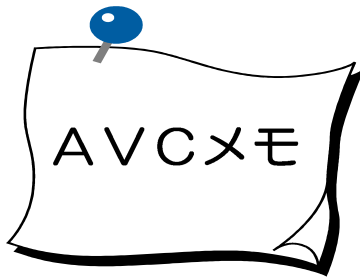
近鉄丹波橋で、電車を待っているとき間違いに気づいたのは彼の方。ホームでのアナウンスを聴いて「あ、反対のホームですわ」。彼女たちは耳も命。研ぎ澄ましている。私は「おかしいなあ？奈良へ行くのになんで京都行きの電車が来るのかなア？」ぼんやり疑問に思っていたところ。笑い話ですんだけど、遅れそうだからと走るわけにも行かない・・・。あ、でもいつか電車の時間ぎりぎりだったので、二人を連れて観光客で賑わう商店街を走らせたことあったな。

知り合ったとき彼女は30代、私は50代だった。70歳近くなるとガイドの方がよろよろしている。おまけに私は誰もが認める方向音痴。

視力も聴力も脚力も記憶力も判断力も低下しているこんな私にガイド頼んでいいのか？ それでも、これからも私は白い杖を見たら声をかけるでしょう。

皆様も白杖を見たら恐れずに「お手伝いしましょうか？」と声をかけてみてください。





文字が踊る！

竹田幸男

ビデオカメラの「手ぶれ防止」機能は、家庭用ビデオカメラにとっては必須の機能になっています。今や、この機能のないカメラは、家庭用としては、あり得ないものです。

それでも、手ぶれ防止機能は万全ではありません。手ぶれ防止機能の効果を上回る揺れが残ってしまう場合も多くあります。

そんなときにお助けになるのが編集ソフトに搭載された「手ぶれ防止」機能です。この機能については、なんと8年前、この会報の第1号、2009年6月号に「手振れ補正機能付き編集ソフト現わる」という記事が出ていますので、詳細を見たい方は、古いバックナンバーをひもといてください。

最新の映像編集ソフトの手ぶれ防止機能は、当時のものに比べると、映像の上下左右の揺れという2次元補正だけではなく、映像の回転とか、拡大縮小に対しても補正できるようになったものがあり、いろいろな揺れに対応できるようになっています。しかし、使いすぎると、反動として現実にはあり得ないような画面の動きが現れることもあり、何事も効き過ぎないようにやっていかなければなりません。

最近経験した現象として、文字が踊る！ というものがあります。古い時代の8ミリテープに記録した映像をDVD化したときのことです。手ぶれ防止があまり効いていないカメラだったようで、写った人物が上下左右に踊っていました。編集ソフトのタイムラインで「手ぶれ防止」をかけたところ、いい具合に人物の踊りが軽減されました。これはいける、とDVDにしたところ、とんでもないことが起こっていたので、そのDVDをボツにしました。

何が起こったか、というと、当時のカメラは画面に日付を入れるか否かの選択スイッチがあり、時々画面に日付が入ったままの映像がありました。この日付は撮影の時に画面に入ってしまうので、撮影後に消すことができません。編集で手ぶれ防止機能をかかけたので、人物の踊りは軽減したのですが、この日付だけが盛大に踊り出したのです。人物の踊りが軽減した分、画面の中で、反動というか文字が踊っています。これは非常に目立つので、泣く泣く、せっかくの「手ぶれ防止」機能を使わずにDVDを仕上げる羽目になりました。 ■